

一温暖化絶滅危機で気候学者が真相を語りたらない理由一

温暖化絶滅危機真相に一番近い気候学者等たちが今一"でしゃばらない"本質的理由は、もし回避不可能の予言が当たっても勝者はいない、もし回避可能でも其の時は大衆に生活困窮を強いる事になり、危機を真の当たりに見るまでは抵抗勢力多数から攻撃される、<事態は仮に 100%CO2 放出停止でも暫くは温暖化進行が止まらないと言うのが IPCC 結論>多少でも予言が外れるならば之見よがしに攻撃される、之ではやってられないでないか！

昨年、気候変動に関する政府間協議＝IPCC 科学者とゴア元副大統領が温暖化問題貢献でノーベル受賞だが、真面目な研究者ほど、IPCC 楽観論に否定的。赤信号だが、皆が平気で渡るので、とんと真相に目を向けないのだ。 2008/1/20.

[1]：熱力学的不可逆性問題の悲惨な過去歴史<憎悪集団の陰謀>：

一温暖化問題最大核心部分：仮に放出0でも温度上昇自走が当面ある一

IPCC 科学者団の一つ重大結論は現状においては既にCO2 放出完全停止でも暫くは温度上昇が止まらないと言う自走性が始まっている結論。だから放出持続ならば一層危険化増大は明白。5%削減が「焼け石に水」と言う理由、最低 50%削減で濃度上昇停止値と言われる。問題背景知る一つは物理化学過程一般の後戻りできない＝不可逆性問題の歴史経験事情。

- 20 年前筆者は物理化学一般反応が不可逆になる理論開発に関与。だが真相は内外学会権威筋から 1988 論文発禁処分。基礎力学方程式が可逆なのになぜ不可逆かが謎だった。
- (1)新理論辛辣批判で著名なパウリが源証明。湯川先生ですら不可逆性では大間違い。時間とエネルギーは重大な双対関係にある。力学系時間発展支配するエンジンはエネルギー機構のハミルトニアンと呼ばれる演算子。自己共役との性質下に閉鎖系のエントロピー<無秩序化の示強量>増大法則が証明されたと記載⁽¹⁾。逆で自己共役では増大しない。90 年秋物理学学会会合で唯一肯定は同じ主題を別角度で仕事してた筑波大物理類(凝縮系理論)教授氏、論文発禁は学会を超えた高位意思指図と暗示してくれた教授氏も。この仕事では全部ではないが主題同業者多数は好意的であったにも係らずだ。
 - (2)1990 年自著には「時代は産業過剰エントロピー増大に伴う準閉鎖系地球環境資源の死活問題が一般人からも起こってる」との記載がある。「秩序系は流入と排出を持ってしか維持できない」との認識も示されてる。流れ滞りは病 CO2 蓄積＝無秩序化に向かう。
 - (3)この仕事以後、就業収入が途絶。そればかりか市内自転車等移動では憎悪集団から執拗意図的に車排ガスを浴びせられる生活に、皆様も濃い排ガス中の生活は同じですが。

[2]: 水面下で動く気候破綻阻止 :

然るに温暖化問題を深刻に捉え、且つ之に関する抵抗勢力(憎悪集団)が甚大なる事情から科学者一部や見識高い有力者たちが破滅阻止に動いた。其の戦略は次の様になる。

(1)ピーターと狼効果:

「“惨事が起こる”と余りに早く予言すると、誰もが実現までに嘘と思いたがる」、羊飼いやピーターは狼が襲ってくると吹聴したが狼は来ない、だから皆は彼を信用しなくなってしまう。だが本当に狼が襲って来た肝心の時、誰も彼を嘘と思ひ動かなかつた。だから予言の時期は難しい。ブラジルの大預言者ジュセリーノ師の苦境を想定すべし。

(2)悪魔憎悪集団は物質商業主義快楽で大衆を魅惑し、神はきつい節度倫理を要求する!

こうなれば近代世界の人間は勢いで前者に従う次第、後者は過去に追いやられ、背景にある擬似科学が物質商業主義大繁栄を導き大衆を過去にない快楽に誘った、科学技術は人類大殺戮に通じる戦争(人類殺戮最大 20 世紀!)と今まさにある背後にある人類大絶滅計画、逆に擬似科学は神仏否定では大効果、節度倫理などは他人多数が甘い汁を吸ってるそばでは到底やられてられないのだ。悪魔は利己主義助長の超天才、虚栄と欲得争奪競争に誘い、格差劣等感を扇動、皆が利己主義化が現代世界の最大特徴。利己主義者は他人を損得で判別する結果、損な相手には即座に憎悪姿勢になる! まさに大衆を悪魔化普及するのが彼らの神への復讐劇シナリオ。

(3)温暖化危機の超絶困難性=大衆の見えない未来に対する認識力と実行力問題:

起こってしまった惨事は誰の目にも明白だが、凡そ人は未来が理論(+)でしか判らないと言う教育にない。歴史は過去既知に関する記憶学習が主題であり、法則性から未来を計る技術には言及しない。この事に最も習熟してるのが数理理論科学技術者たちだ。計算機発達で未来シュミレーションが大発展。ところが大衆一般の最も嫌悪する学問が数学、之も現状学校教育の負貢献。現代ほど一部専門家と大衆との間の知的ギャップが大きい時代もない。しかも温暖化問題の超絶困難性は皆が同期しないととても達成できない人類超難事にある。まさに一人一人が試される**<最後の審判>**

(4)危機回避一発逆転は、兆候がある程度大衆全般の了解が行き渡ってから、一斉出動にして有効始動するしかない!!。今の日本は正否決断しかない!!!

英国では既に 60%削減計画が始動と言う情報も。欧米人は粗野の一方で警戒深く、日本を遙か越えて裏側エリート間では危機意識=戦時体制に移行の様相である!

[3]: 想定対策マニュアルの開発 :

(1)主役の気候科学者等を中心に他分野の援助研究団を組む。

(2)国民に真相を告げる。経済界+農協+労組+国民代表為政者で協議する。

—参考書—

- (1)湯川秀樹監修, 量子力学Ⅲ (岩波講座現代物理学の基礎 5) p418, 岩波書店, 1972.
- (2)日本物理学界, 1990 年秋の分科会講演予稿集第三分冊, 4p-PS-11, p486.
- (3)鈴木基司, 量子確率過程力学, 時事問題解析工房, 1990。